

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071100640		
法人名	有限会社 同朋		
事業所名	グループホーム同朋		
所在地	福岡県福岡市南区横手3丁目37-24 (電話) 092-502-5061		
自己評価作成日	平成 26 年 1 月 28 日	評価結果確定日	平成 26 年 3 月 19 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者の皆さんと職員が家族のように暖かい雰囲気のホームです。バランスのとれた食事づくりを、入居者様に手伝っていただき、楽しく食卓を囲んでいます。また、3階の多目的室においてボランティアの方や学童の方とのふれあいなど、地域の方々と共に過ごせる機会を多くしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成 26 年 2 月 12 日	

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

住宅地のマンション1・2階に位置し、壁を居抜いて窓が大きく明るい居室に改修してある。近くにはなじみの八百屋があり、地域の人との交流や情報交換の場となっている。庭で収穫した野菜を使った、手作りの充実した食事を提供している。避難訓練には力を入れており、毎月1回は行い、地域の防災訓練にも参加している。利用者のその人らしさを大切にしたい、家庭的な雰囲気が強く感じられる事業所である。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【 I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職場の目に付く所に表記している。 朝礼時に理念を声に出して共有している。	事業所独自の理念があり、「地域の中で笑顔と優しい心で生活支援」という地域密着型の視点がある。理念は各フロア玄関に掲示しており、朝礼の時に職員で唱和している。日頃の介護や声かけの中で、理念の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の公民館の文化祭や夏祭りに参加している。また、近所の八百屋さん利用者と共に買い物に行き、顔見知りになっている。同朋だよりを、毎月店舗に掲示して頂いている。	町内会に加入しており、地域の人が様々な情報を伝えてくれる。地域の夏祭り・文化祭・防災訓練に利用者と一緒に参加している。事業所のおたのしみ会には、小学校の子供達や大正琴のボランティアの人の訪問があった。関連施設の特養と夏祭りを合同開催している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の婦人会、民生委員、町内会長、公民館長の方々に出席頂き情報を頂き向上を図っている。また、地域の防災訓練にも参加している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員が運営推進会議の議題を話し合い現状報告、今後の議題等を家族、出席者に行なっている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、利用者やサービスの状況報告をしている。外出先や初詣に行く場所の情報を聞き、外出時には取り入れる等、会議で出た意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	南第4地域包括センターの参加を頂いている。また、入居に際しての協力も頂いている。同朋だよりは、毎月届けている。	事業所便りを行政窓口を持参し、事業所の報告や相談・情報交換をしている。行政より入所希望者を紹介・相談されることもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロア会議等で、身体拘束について議題にあげ、話し合いを行なっている。	玄関にはチャイムがついており、居室・庭への出入り口は施錠していない。身体拘束のマニュアルがあり、内部研修を行い、研修記録もある。研修を通じて身体拘束に関する知識を習得し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や自主研修に参加し、常に虐待に対する話し合いをもっている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度についての研修会に参加している。また、全体会議にて研修内容を報告している。	契約時や必要時に家族に、成年後見制度や日常生活自立支援事業について説明をしている。権利擁護に関するテキストやパンフレットはある。	内部・外部とも権利擁護に関する研修は実施されていない。これから、外部研修を受けられる予定ということなので、伝達研修をお願いしたい。
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書に基づき、十分理解して頂ける様対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言動や表情等の観察を行ない、不満解消につとめている。 家族に対しては、苦情意見箱を設置している。	利用者は日常生活の中で、自分の意見や思いを職員・管理者に伝える機会をもっている。食事のメニューや外出等の希望をできる範囲で取り入れるように努めている。家族会があり、運営推進会議への参加もある。また、電話や面会時に家族の意見を聞くように心がけている。意見箱も設置しており、第三者相談窓口の説明も繰り返し行っている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議や、フロア会議を行なって、意見や希望を聞いている。	今回の外部評価は、皆の意見を聞いて数人でとりまとめた。管理者や代表者は会議やカンファレンスで職員の意見を聞く機会をつくっている。行事や外出等についての話し合いで出た意見は、運営に取り入れている。職員の異動や離職は最小限になるように努めており、職員が代わる時には引継を十分に行っている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各個人に面談を行ない、コミュニケーションを図っている。職員の特技を生かして、役割を持って個別ケアや環境整備等に生かしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては性別、年齢に関係なく行なっている。	採用選考では、特定の理由で採用対象から外すことはない。定年は特に設定していない。 職員が働きやすいように、休みや勤務等配慮するように努めている。研修は職員が偏りなく参加できるようにしている。上級資格所得のための支援もある。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	朝のミーティング等で常に人権を配慮した介護を行なう様指導されている。	人権について、一部職員が外部研修に参加し、伝達研修を行っている。テキストや研修記録はある。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修や実務研修に参加出来ている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流は、行なえてない。 法人内のグループホームとの交流は、ある。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者と職員で今住んでおられる所に出向き、面談を行なっている。顔を覚えて頂くことと同時に、心配な事がないか、お話しを伺っている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたって面談等を行ない、よくお話しし、私どもの協力が届くように、対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談により、詳しくお話を伺っている。病院受診などは、具体的にお話している。その方にあったサービスの利用、きずきを心がけている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活歴を尊重し、グループホームでも役割を持って、共感共生に基づき、生活をして頂いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方に、日常の細かいところも密に現状を報告・共有し、本人の支援にあたっている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の要望があれば、いつでも対応できる体制が出来ている。	職員や管理者は入所時、利用者の馴染みの場所や人の情報を家族や本人から得ている。利用者の友人・知人に訪問してもらったり、今まで買い物をしていたブティックに買い物に行く等、馴染みの人や場所との関係が継続できるように支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	観察を行ない、利用者同士の関係を大切にできている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去となられた方や、他施設に移られた方など、落ち着いた頃に電話にて、その後の状況等をお聞きし、きずいたことなどを、お話している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの利用者に合わせて介護に取り組んでいる。	職員は日々の会話の中で、利用者の思いや要望を把握するように努めている。意思疎通が困難な利用者には、家族や知人から情報を得たり、言動や表情から思いを推し測っている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供を頂き、連携を行なっている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれ、その方にあった生活が送れるように、見守りや介護に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の居心地の良い環境をめざし、カンファレンスを重ね、介護計画を作成している。	担当職員や医師の意見を反映した原案に、利用者・家族の希望を取り入れて、利用者一人ひとりのその時点での具体的な計画を作成している。3ヶ月に1回見直しを行っている。計画作成時および見直し時には、計画について家族に説明・報告を行い、署名をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケアの記録は、行なえている。気づきがあれば、連絡ノートやカンファレンス等で、情報の共有と介護計画の見直しを、行なっている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望があれば、柔軟に対応できる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員、婦人会、消防、ボランティアと、連携出来ている。横手公民館活動の中で、小学生の皆様との交流を図り、支援を心がけている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの病院を希望される方は、そのまま継続されている。家族が同行できない場合は、職員が受診の支援をおこない、報告している。耳鼻科受診を年2回、行なっている。	利用開始までの受診経過、現在の受診希望を把握したうえで、かかりつけ医による受診の継続を家族主体で行ってもらうことを基本としている。突発的な場合などで職員主体で受診を行う時や訪問診療を受診された時などは、職員は家族に速やかに報告し、常に情報を共有している。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の訪問診療や、何かあった時等、すぐに連絡がとれるよう、体制が出来ている。月1回の診療内科の往診を、頂いている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	お互いに介護引き継ぎ書や、医療提供書などの交換を、行なっている。入退院時は、職員が病院に同行している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時の承諾書とは別に、重度化や終末期のあり方についての事業所の対応方針を明文化して、利用者や家族へ説明し、方針を共有して頂いている。また、その様な状況になりそうな場合は、早めに連絡し今後のことなどの相談を、行なっている。施設、入院等の連携を図っている。	重度化や終末期のあり方について、事業所の対応方針が「重要事項説明書」の中に明文化されており、それに基づいて、緊急時の対応における「承諾書」を利用開始時に本人・家族に説明の上もらっている。支援方針は、職員・本人・家族・かかりつけ医の間で、随時話し合うようにしている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルをつくり、全職員が共有している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署からの防災訓練を、年1回行なっている。年間の防災訓練計画をたて、実践している。緊急連絡網に、地域の方の掲載の了解を得ている。災害時に備えて、食料や飲料水の確保をしている。	マニュアルに基づき、毎月1回（年1回は消防署の協力あり）避難訓練を実施、避難経路の確認、消火器の使用方の説明を行っている。地域住民にも訓練への参加呼びかけを行っている。食料品や飲料水など、非常用備品の準備がある。職員はAED講習も受講するなど、緊急時に備えて万全の態勢で臨んでいる。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の日常会話での言葉使いは、管理者より常に指導を受けているが、職員間でも注意し合っている。自主研修にて、接遇研修等行なっている。	浴室やトイレに入る時にはノックをしたり、おむつ交換や更衣の場所についても考慮するなど、利用者の誇りやプライバシーに配慮し、声かけや対応を工夫している。業務上知り得た内容は他言しないように徹底している。内部研修やミーティングにて、職員の意識向上を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様に決定して頂けるような、言葉かけを多くしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様全員で協力して頂く事と、個人で楽しんで頂く事など、一日のスケジュールにメリハリをつけている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二か月に一度、理美容の方に来て頂き、ヘアカットや顔そりをして頂いている。また、お正月や忘年会など、お化粧品やマニキュアなどして、おしゃれを楽しんで頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや、食事の準備、かたづけ、食器拭きなどを、職員と一緒にしている。	献立には利用者の希望を取り入れ、食材も一緒に買物に行き、準備や片付けを利用者にも協力してもらうなど、食事が楽しくなるような工夫を行っている。職員1名と一緒に同じ食事を摂っている。職員は、栄養のバランスに必要な方やミキサー食の方にも十分注意し、気遣いを行っている。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的な血液検査結果などを参考に、食事量や水分量を考えて、実施している。また、入居前から朝食時間が遅かった方は、そのまま継続し、少し遅めの朝食を摂られている。いつでも利用者が飲食できるように、準備している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアができない方には、声掛け介助している。また、出来る方も声掛け見守りを行っている。 年2回、歯科検診のため歯科医院にお連れしている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表により、個人の排泄状況を把握し、対応している。	職員は利用者一人ひとりのサインを把握し、時間を見計らって尿意のない方を誘導したり、失禁した場合には手早く周囲に気づかれないように対応している。おむつ等の使用の有無、種類や根拠は、排泄チェック表や記録により情報を共有し、自立支援の方針のもと、家族にも相談をしている。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食生活を送って頂き、午前、午に軽い運動をして頂いている。また、排泄管理表により、排便の確認を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた入浴の支援をしている	入浴剤を使ったり、季節の行事に添った入浴により、気分を変えて楽しんで頂いている。	毎日入浴の準備をしている。基本的には午後から1日おきでシフトを組んで対応するが、希望や生活習慣、状況などにより調整して希望に応じた支援を行っている。拒否の見られる方には、無理強いをせず、時間を置いたり職員を変えたりして改めて声かけをしている。ゆず湯や入浴剤の湯なども催し、入浴が楽しいひとときになるように工夫している。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない様に注意しながら、その方のペースに合わせ、臥床時間を考慮しながら夜間の良眠に、繋げている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れが無いように、職員が服薬管理を行ない、症状に変化があれば医師に報告している。 副作用等の研修会を行ない、職員の知識向上に努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理の手伝い、皮むきや根とり、食器拭き、洗濯物たのみ等のお手伝いが、張り合いになっておられる利用者もおられる。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に添うことは難しいが、前もって計画をたて、家族に協力を得て外出することが出来る。近くの散歩程度であれば、本人の体調と天気を見ながら、実施できている。	天気や体調に合わせて、買物などの外出支援を行っている。季節の良い時には、ほぼ毎日近隣の散歩を行っている。季節の花や紅葉などを眺めに行くなど、普段行けないような場所へのドライブ企画は、利用者の楽しみになっている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と家族の希望に応じて、トラブルが起きない様に支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙などは、希望されれば直ぐに対応している。また、お正月や、お盆などは、御本人様よりご家族に、お電話でお話し頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が季節の草花を庭にて摘まれ、玄関やトイレ、居室に飾られている。	家庭的で居心地の良い空間づくりのため、幼稚な物の配置は避け、花や作品などを通して季節感が感じられるような工夫を行っている。職員の声やテレビの大きさには常に配慮し、降り注ぐ日差しの強さはカーテンで調整している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	会話が出来るように、気が合う人と近くにいることが出来るようにしている。また、行き違いや勘違いがある時も、理解者が近くにいるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物、馴染みの物を持ち込んでいただけのように、家族と相談している。	ベッドは使い慣れた物の持ち込みができる。また、テレビや仏壇、テーブル、鏡台などの家具のほか、写真や家族の作品などを利用者が自由に持ちこんで、自室でも落ち着いて安心して過ごせる配慮を行っている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境づくりに心がけ、一人ひとりの行動や言動に見守りと注意を払い、理解支援できるようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職場の目に付く所に表記している。 朝礼時に理念を声に出して共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公民館の文化祭や夏祭りに参加している。また、近所の八百屋さん利用者と共に買い物に行き、顔見知りになっている。同朋だよりを、毎月店舗に掲示して頂いている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の婦人会、民生委員、町内会長、公民館長の方々に出席頂き情報を頂き向上を図っている。また、地域の防災訓練にも参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員が運営推進会議の議題を話し合い現状報告、今後の議題等を家族、出席者に行なっている。		
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	南第4地域包括センターの参加を頂いている。また、入居に際しての協力も頂いている。同朋だよりは、毎月届けている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フローア会議等で、身体拘束について議題にあげ、話し合いを行なっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や自主研修に参加し、常に虐待に対する話し合いをもっている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度についての研修会に参加している。また、全体会議にて研修内容を報告している。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書に基づき、十分理解して頂ける様対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言動や表情等の観察を行ない、不満解消につとめている。 家族に対しては、苦情意見箱を設置している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議や、フロアー会議を行なって、意見や希望を聞いている。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各個人に面談を行ない、コミュニケーションを図っている。職員の特技を生かして、役割を持って個別ケアや環境整備等に生かしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては性別、年齢に関係なく行なっている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	朝のミーティング等で常に人権を配慮した介護を行なう様指導されている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修や実務研修に参加出来ている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流は、行なえてない。 法人内のグループホームとの交流は、ある。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者と職員で今住んでおられる所に出向き、面談を行なっている。顔を覚えて頂くことと同時に、心配な事がないか、お話しを伺っている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたって面談等を行ない、よくお話しし、私どもの協力が届くように、対応している。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談により、詳しくお話を伺っている。病院受診などは、具体的にお話ししている。その方にあったサービスの利用、きずきを心がけている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活歴を尊重し、グループホームでも役割を持って、共感共生に基づき、生活をして頂いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方に、日常の細かいところも密に現状を報告・共有し、本人の支援にあっている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の要望があれば、いつでも対応できる体制が出来ている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	観察を行ない、利用者同士の関係を大切にできている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去となられた方や、他施設に移られた方など、落ち着いた頃に電話にて、その後の状況等をお聞きし、きずいたことなどを、お話ししている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの利用者に合わせて介護に取り組んでいる。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供を頂き、連携を行なっている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれ、その方にあった生活が送れるように、見守りや介護に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の居心地の良い環境をめざし、カンファレンスを重ね、介護計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケアの記録は、行なえている。気づきがあれば、連絡ノートやカンファレンス等で、情報の共有と介護計画の見直しを、行なっている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望があれば、柔軟に対応できる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員、婦人会、消防、ボランティアと、連携出来ている。横手公民館活動の中で、小学生の皆様との交流を図り、支援を心がけている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所との関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの病院を希望される方は、そのまま継続されている。家族が同行できない場合は、職員が受診の支援をおこない、報告している。 耳鼻科受診を年2回、行なっている。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の訪問診療や、何かあった時等、すぐに連絡がとれるよう、体制が出来ている。 月1回の診療内科の往診を、頂いている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	お互いに介護引き継ぎ書や、医療提供書などの交換を、行なっている。入退院時は、職員が病院に同行している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時の承諾書とは別に、重度化や終末期のあり方についての事業所の対応方針を明文化して、利用者や家族へ説明し、方針を共有して頂いている。また、その様な状況になりそうな場合は、早めに連絡し今後のことなどの相談を、行なっている。施設、入院等の連携を図っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルをつくり、全職員が共有している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署からの防災訓練を、年1回行なっている。年間の防災訓練計画をたて、実践している。緊急連絡網に、地域の方の掲載の了解を得ている。災害時に備えて、食料や飲料水の確保をしている。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の日常会話での言葉使いは、管理者より常に指導を受けているが、職員間でも注意し合っている。自主研修にて、接遇研修等行なっている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様に決定して頂けるような、言葉かけを多くしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様全員で協力して頂く事と、個人で楽しんで頂く事など、一日のスケジュールにメリハリをつけている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二か月に一度、理美容の方に来て頂き、ヘアカットや顔そりをして頂いている。また、お正月や忘年会など、お化粧品やマニキュアなどして、おしゃれを楽しんで頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや、食事の準備、かたづけ、食器拭きなどを、職員と一緒にしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期の血液検査結果などを参考に、食事量や水分量を考えて、実施している。また、入居前から朝食時間が遅かった方は、そのまま継続し、少し遅めの朝食を摂られている。いつでも利用者が飲食できるように、準備している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアができない方には、声掛け介助している。また、出来る方も声掛け見守りを行っている。年2回、歯科検診のため歯科医院にお連れしている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表により、個人の排泄状況を把握し、対応している。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食生活を送って頂き、午前、午に軽い運動をして頂いている。また、排泄管理表により、排便の確認を行なっている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴剤を使ったり、季節の行事に添った入浴により、気分を変えて楽しんで頂いている。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない様に注意しながら、その方のペースに合わせ、臥床時間を考慮しながら夜間の良眠に、繋げている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れが無いように、職員が服薬管理を行ない、症状に変化があれば医師に報告している。 副作用等の研修会を行ない、職員の知識向上に努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理の手伝い、皮むきや根とり、食器拭き、洗濯物たのみ等のお手伝いが、張り合いになっておられる利用者もおられる。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に添うことは難しいが、前もって計画をたて、家族に協力を得て外出することが出来る。近くの散歩程度であれば、本人の体調と天気を見ながら、実施できている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と家族の希望に応じて、トラブルが起きない様に支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙などは、希望されれば直ぐに対応している。また、お正月や、お盆などは、御本人様よりご家族に、お電話でお話し頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が季節の草花を庭にて摘まれ、玄関やトイレ、居室に飾られている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	会話が出来るように、気が合う人と近くにいることが出来るようにしている。また、行き違いや勘違いがある時も、理解者が近くにいるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物、馴染みの物を持ち込んでいただけのように、家族と相談している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境づくりに心がけ、一人ひとりの行動や言動に見守りと注意を払い、理解支援できるようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない